

愛媛大学 西日本豪雨災害(愛媛県) 調査団 先行調査速報会(調査団員、マスメディア向け)

2018年7月11日17:30~17:55

場所: 社会連携 研修室

報告者: 防災情報研究センター 森 伸一郎

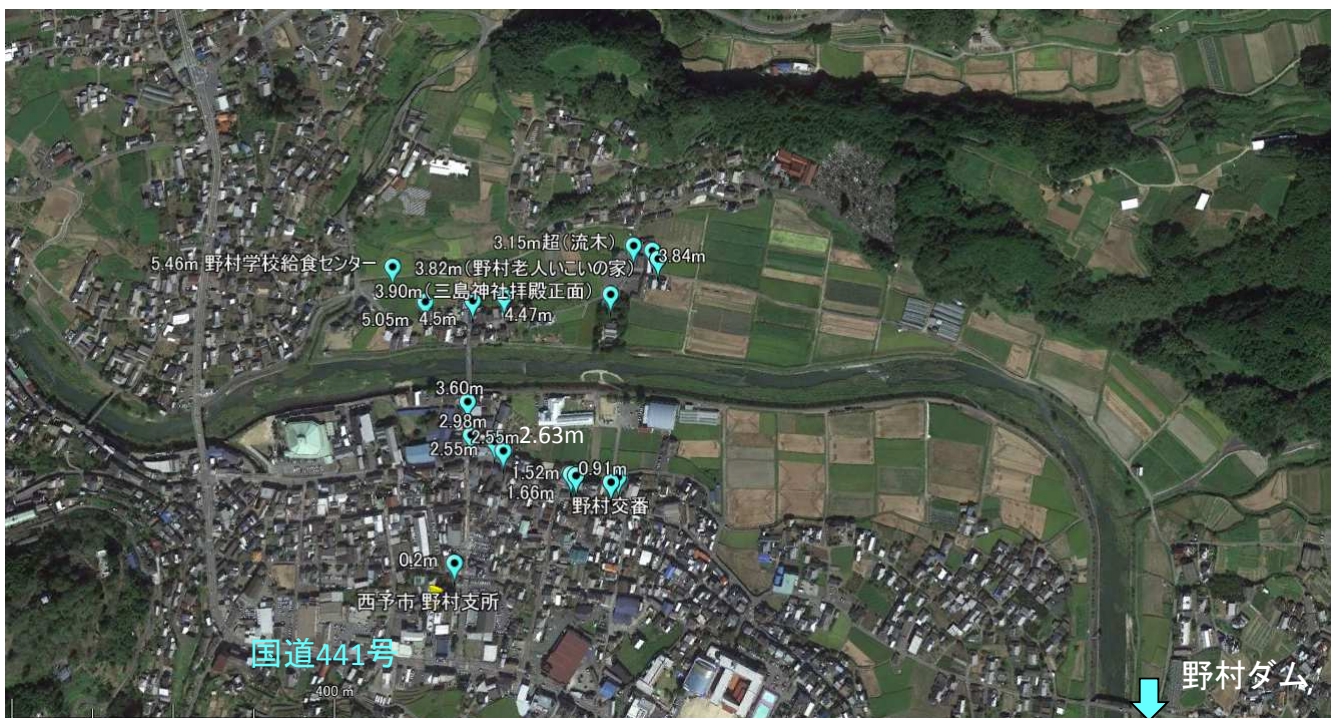
内容

■野村町の浸水深さ測定(7/10) 結果(速報) パワーポイント
方法、結果、意義、活用

■松山市(7/7)、大洲市(7/9)、宇和島市吉田(7/10)の被災状況
撮影写真の提示と口頭説明

野村ダム

野村町の浸水深さ測定(7/10) 結果(速報)



肱川左岸 西予市野村支所から肱川側が浸水深さ最大3.60m、右岸側は浸水深さ5.46m

野村町の浸水深さ測定(7/10) 結果(速報)



写真左が左岸、右が右岸。左岸は

浸水深さ・高さ・流れの調査

野村町における浸水被害

避けられるべき浸水による人的被害

浸水被害の実態把握→まずは、被害認定の簡素化への貢献

学術、技術的貢献

浸水深さ＝浸水痕跡の高さ の測定

浸水痕跡調査は、時間との勝負

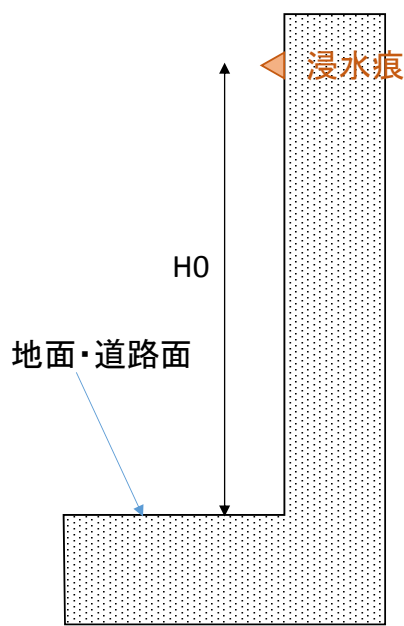
活用・利用の対象

被害認定(罹災証明)

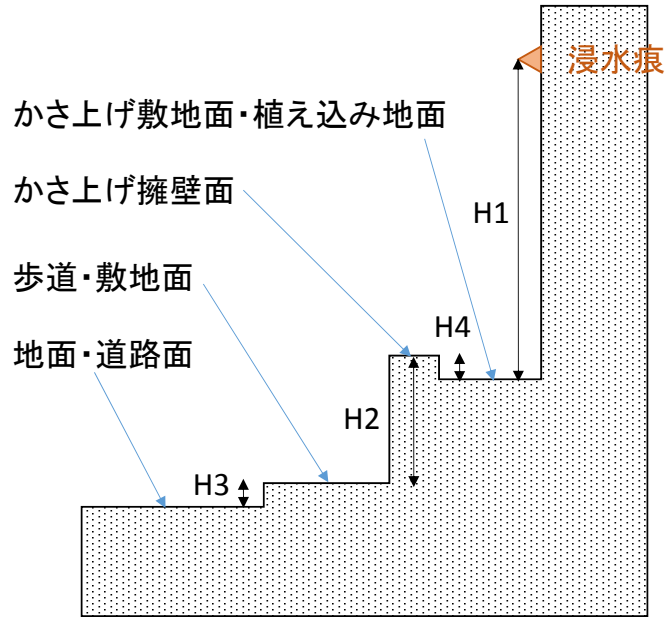
災害査定

本日の段階では、速報値、見直して修正の可能性あり。

浸水深さの測定方法 (1)スケール

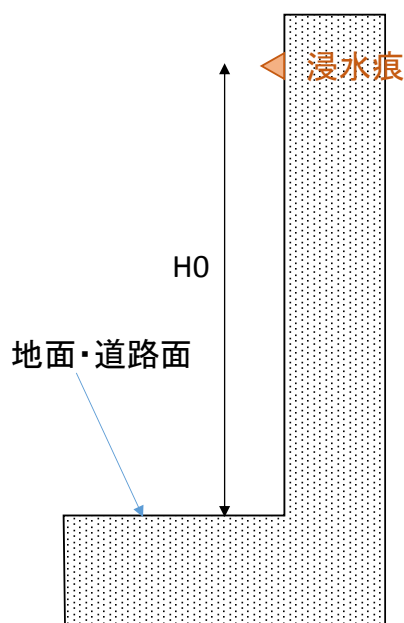


高さ=浸水深さ H_0

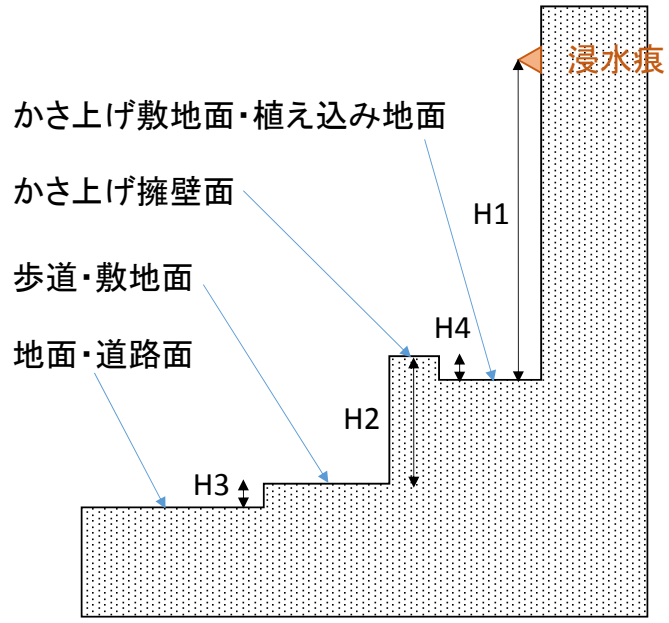


高さ=浸水深さ $H_0 = H_1 + H_2 + H_3 - H_4$
 (分割して求める場合は、 $H_1 \sim H_4$ の記載を重視)

浸水深さの測定方法 (2)レーザー



高さ=浸水深さ H_0



高さ=浸水深さ $H_0 = H_1 + H_2 + H_3 - H_4$
 (分割して求める場合は、 $H_1 \sim H_4$ の記載を重視)

浸水深さの測定結果 野村町三島町



浸水深さの測定結果 野村町三島町



野村町老人いこいの家 382cm

浸水深さの測定結果 野村町三島町



平成30年台風第7号及び前線等による大雨災害 Torrential Rain Disaster in Western Japan in 2018

愛媛大学 森 伸一郎 Shinichiro Mori, Ehime University

浸水深さの測定結果 野村町三島町

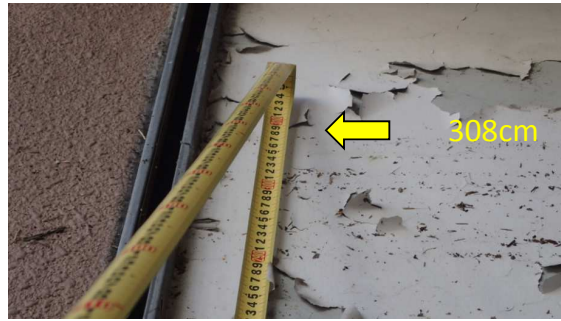


三島神社の拝殿玄関の屋根
瓦が浸水の高さより低い部分が移動している。
水流の強い証拠。

平成30年台風第7号及び前線等による大雨災害 Torrential Rain Disaster in Western Japan in 2018

愛媛大学 森 伸一郎 Shinichiro Mori, Ehime University

浸水深さの測定結果 野村町新町



野村町新町 D氏宅 7月10日16:21撮影
308-45=263cm 2.63m
45cm(測定点の道路面からの高さ)

浸水深さの測定結果 野村町三島町



T氏宅、2階網戸の浸水痕跡
505cm(宅地犬走り面より)

浸水深さの測定結果 野村町三島町



軒先に物が衝突した痕跡。

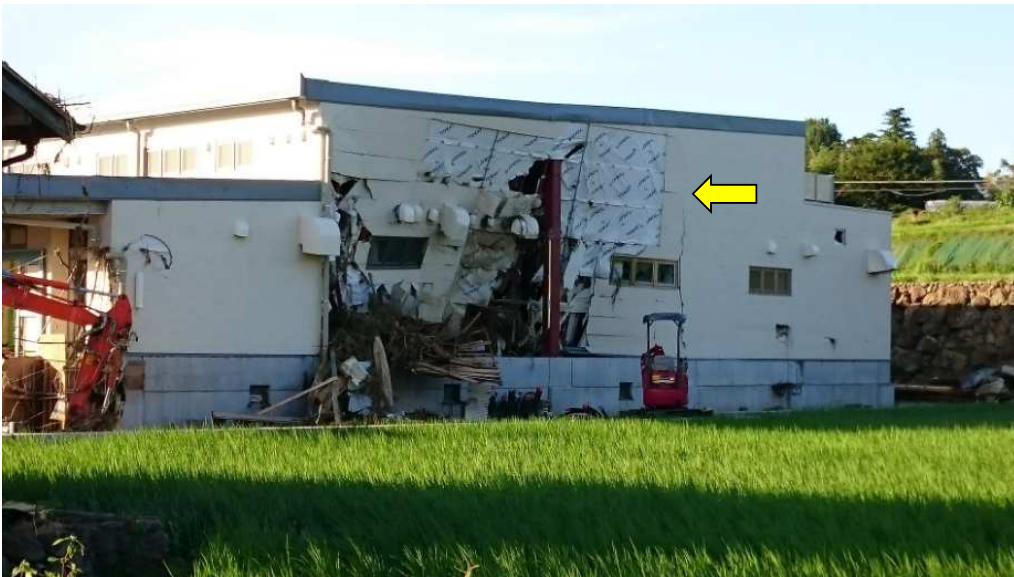


7月10日17:34撮影

7月10日家族と会社社員さんで後片付けと清掃が進められていた。「壁などはきれいに洗い流したから、痕跡は残っていないよ」とのことでした。唯一残っていたのが、網戸の痕跡であった。

1階の軒先には物が衝突した痕跡があった。水流とがれきの証拠。

浸水深さの測定結果 野村町三島町



野村学校給食センター(建設中)7月10日17:57撮影

南面の壁が大きく損傷しており、南側からの水流が強かったことがわかる。この地域で水流の強かったことはT氏の証言や隣接する木造家屋が倒壊・流出していることから窺える。水流やがれきの衝突の外力被害が内閣府の「浸水深による判定」の前提条件になることから、この超過結果は有効である。

浸水深さの測定結果 野村町三島町



野村学校給食センター(建設中)泥水痕跡 7月10日18:04撮影

南面の壁の損傷はもっと上まで伸びているが、確認された泥水面の痕跡は5.46mであった。

浸水深さの測定の意義

浸水実態を把握する。

- ・浸水の挙動把握
- ・浸水リスク・クライシスに対する住民行動と災害ガバナンス
- ・被害認定、災害査定

災害に係る住家の被害認定基準運用指針(内閣府)

<http://www.bousai.go.jp/taisaku/pdf/shishinall.pdf>

災害ボランティア・キャンペーン

- (1) 企業のボランティア活動に対する組織的支援(体制、有給休暇)
- (2) 大学・学校(高校、中学)でのボランティア支援体勢の準備
- (3) 隣接地域の自主防災組織などによるボランティア
- (4) メディアによるボランティア応援キャンペーンの提案
- (5) JR、宇和島バス、高速道路などのボランティア割引
- (6) 建設関連業者などに対するボランティア活動実施の推奨
- (7) ボランティア活動実施の建設関連業者などに対する得点

(巨大)南海地震が起きたら、全県域での被災、南予・中予の集中被災、他と都道府県からのボランティアは望めない。

少子高齢社会では、地縁・血縁だけでは救えない高齢者が増える。ボランティア社会への移行が必須。

愛媛大学の災害ボランティア支援策提案

- (1) 欠席の取扱規程の改定(ボランティア活動による欠席: +3回)
- (2) ボランティア活動を通じた関連レポートによる成績加点・評価
- (3) 愛媛大学が、学部、学科が出すボラバスの推進
- (4) 愛媛大学ボラバスに対する学長裁量経費

大学生防災リーダー・サポーター

愛媛大学防災リーダー

愛媛大学防災リーダークラブ

<https://twitter.com/bousaiehimeuniv>

<https://www.facebook.com/bousaiEHIMEuniv/>

愛媛大学の学生防災士によって構成。二神先生が写真の中央に。

大学生防災サポーター

平成18年4月1日(土)松山市防災センターにおいて、大学生防災サポーター入団式が行われました。市内の4大学から74人が入団。

<https://www.ehime-u.ac.jp/post-17135/>

防災サポーターは、安全性などの面から消火活動は行いませんが、防災活動に参加したり、大規模災害時に避難所等で応急救護や物資配布などの支援を行います。また、語学力を活かして外国人被災者の通訳なども行います。今後は、人工呼吸などの救護の講習を受ける予定です。

上松健次郎松山市消防団団長から辞令書と制服